
くだらない人間にくだらない能力

もみじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

くだらない人間にくだらない能力

【Nコード】

N0386Y

【作者名】

もみじ

【あらすじ】

性懲りもなく またまた小説書きます

完全に趣味で書くんて、普段使わない文体とかやりますし、描写も適当になります

それでもいいかた読んでみてください

「自己満足とかいいよ」とか「メモ帳にでも書いてるよ」とか言う

人・・・読まなければいいんじゃないかな？

わざわざ文句言わずに無視したらいいのに・・・

転生先は決めました『未来日記』です

アニメ始めましたからねー、祝みたいなものですよ

プロローグ

紙「ふんふんふん 髪が無い 頭の周りに野原ができたよ ふんふんふん・・・っと」

誰か来たみたいだな

神「ようこそいらっしやいませ ご飯にしますか？ 白米にしますか？ それとも おこめ？」

あれ？

神「おい・・・無視っすかー？」

・・・ま、いいか

神「じゃ、こっちから話を進めるけどさ、君には異世界へ旅立ってもらう！どつだwwwいいだろうwww」

・・・返事がない

神「ただの屍のようだ・・・ってかあ？冗談じゃねーぜおい！せつかくの来客なのによお！」

あーもー・・・

神「んじゃ、お前、ここ、行って。能力、あげる」

カタコトにも反応無しかよ・・・

神「つまんねえの……つまんねえのッ！」

怒鳴っても反応ない(´・`・`)

神「……ぐすん……でも、私泣かない……!だって……神様だもん!」

あ、ちよ、まじで、やめてくれん?無言とかきついんですけど

神「……いってらっしゃーい」

「俺の名前は虎助（キリ）」 ワロスｗｗｗｗｗｗｗｗ（前書き）

友人のHNが主人公の名前！

転生先も友人からもらった！

出すキャラも友人からもらうつもり！

感想とかでも出してほしいキャラとかあったら言ってほしい
キャラ崩壊前提で出していくから！

「俺の名前は虎助(キリ)」 ワロスｗｗｗｗｗｗ

虎助「俺の名前は虎助。しがない中学生だ」

通りすがりの子供「ねーママー、あの人なんなのー？」

通りすがりの主婦「しっ！見ちゃいけません！春先はああいう人が多いから！」

虎助「(´・···´)」

虎助「俺の名前は虎助。しがない中学生だ」

通りすがりの高校生A「おい見ろよｗｗｗｗなんか自分語りしてるやついるぞｗｗｗｗ」

通りすがりの高校生B「うわｗｗｗｗマジだｗｗｗｗ厨二病かよｗｗｗｗ」

虎助「(´・···´)」

虎助「俺の名前はとらひゅ」

虎助「つ、(´・···´)。。。*。。。*。。。*。。。」

虎助「もう自己紹介なんてしないやい！」

虎助「ハゲたおっさんがいうには、俺はどっかの異世界に飛ばされたいけど。。。。」

虎助「見たところ、異世界って感じはしないな」

虎助「まあ、普通なら池沼のおっさんがなんか言ってたおしか思わないよな」

虎助「でも、俺には死んだ記憶もあるし、見たこともない服を着ている」

虎助「だとするとやっぱり異世界に飛ばされたってことなんだよな・
・・」

虎助「どういう世界なんだろうか・・・」

虎助「ま、いいか。とりあえずなんかバッグ持ってたし、持ち物検査しよう」

虎助「出てきたのは・・・携帯電話と携帯ナイフとカロリーメイト・
あと未来日記全巻」

虎助「なんで俺は未来日記持ってんだ？」

虎助「ま、それはおいておこう。あとは服装の中を探すか」

虎助「まさかの俺のポケットは四次元空間!？」

虎助「と、とりあえず出てきた物を整理しよう・・・」

・バナナ×20本

・バナナの皮×10本

・MP3プレイヤー

・モバイルPC

・ファミコン

・タウンマップ

・手紙

・あとその他色々

虎助「出しても出しても色々出てくるからここらへんで出すのやめたよ」

虎助「あとは・・・ハゲのおっさんの言う事が本当なら俺には何かしらの能力があるはずだ」

虎助「・・・このポケットじゃないよな?」

虎助「とりあえず、バッグの中身のやつもポケットに入れとくか。」

ポケットに入れると重さ感じないし」

虎助「さて・・・次は街の探索でもしますかね」

手紙の中はなんじゃらほい！（前書き）

この小説は俺のノリでできています

基本的に俺に『天啓』が導かれたら書きます

つてかもう0:30だよ！

俺の睡眠時間どうしてくれる！

という思いを込めて・・・あなたの睡眠時間を減らせるほどの小説を書きます！

たぶん・・・

きつと・・・

おそらく・・・

めいびー・・・

が、がんばるもんね！

おれ、がんばっちゃうもんね！

手紙の中はなんじゃらほい！

とりあえず街を探索しようと思ったんだが・・・

虎助「ここは河川敷！」

虎助「しかも今は夕方！」

虎助「さつきから叫んでるので学生さんの目が痛いです！」

中学生DQNA「なんださつきからあいつつづけえ・・・ってか俺の名前なんぞ!？」

中学生DQNB「お前WWWドキュナってなんだよWWW」

中学生DQNA「お前はドキュンBって読めていいなあ・・・」

中学生DQNB「まあまあWWWとりあえずあいつから金むしりとるつぜWWW」

虎助「」

っペー、まじっペー

俺狙われちゃってるよ！

中学生DQNA「ちょっとそのきもお兄さん(笑)」

中学生DQNB「俺ら今金欠なんだよね(笑)」

うわー・・・今どきそんなありきたりな台詞言っちゃいいえよ・・・
とりあえず・・・

虎助「まあ落ち着け少年」

中学生DQNA「ん？」

中学生DQNB「少年ってWWWお前もじゃんWWW」

いや、まあそうだけどね？

現役で高校生やってたけどね？

虎助「俺はな・・・昨日、母親の財布から金パクろうと思って開けたら、10年前の母の日に俺があげた肩たたき券が大事そうに入っていたんだ・・・だから俺は泣きながら2千円を抜き取ったんだ」

中学生DQNA「WWWWWWまじかよWWWWWW
WWWWWWやつべえWWWWWW」

中学生DQNB「つまりお前は今2千円持ってんだなWWWWWW」

あ、やつべ

作り話で感動を呼び起こそうとしたら墓穴掘っちゃまったよ

まあ、2千円パクつたのは嘘だけだな
ちなみに、肩たたき券が入ってたのも嘘
でも、財布から金パクろうとしたことだけはガチで嘘

これ、豆な

虎助「しかたねえ・・・俺のとおきをおきを教えてやるよ・・・」

中学生DQNA「お？WWWなんだ？WWW」

中学生DQNB「お面白いやつだよなWWW」

虎助「昔コンビニでバイトしてるときさWWW学生らしき客が777円の買い物をして1000円 差し出してきたもんでさWWW暗算で速攻で333円のお釣りを渡してやったら、暗算の凄さに驚いてたんだよWWW俺、暗算すごくね？WWW」

中学生DQNA「うっはWWW暗算はねえWWW」

中学生DQNB「お釣り677円だろWWW」

虎助「えっ」

中学生DQNA「えっ」

中学生DQNB「えっ」

虎助「いや、まあ、落ち着けお前・・・もうちょっとよく考えてみる・・・」

中学生DQNA「ああ・・・いろいろの言つとおりだよ・・・10000・・・3333してみろ・・・」

中学生DQNB「・・・やっぱり677じゃねえか」

虎助「な、なんだってー!!!」

中学生DQNA「お前馬鹿だろWWW」

中学生DQNB「お前も勘違いしてただろWWW」

虎助「いやいやいや・・・まあ落ち着け、まだ話はあるんだ・・・」

中学生DQNA「お？なんだよWWW」

中学生DQNB「なんか楽しいなWWW」

虎助「昔、女子がMondayをモンデーと発音したとき俺だけ大爆笑して、みんなの冷たい視線を浴びたことあったなWWW日曜日をモンデーとかWWWマンデーだろWWW」

中学生DQNA「うはWWWそいつ馬鹿すぎんだろWWW」

中学生DQNB「あれ？日曜ってサンデーじゃね？」

虎助「えっ」

中学生DQNA「えっ」

中学生DQNB「えっ」

虎助「あ、ほんとだ」

中学生DQNA「・・・」

中学生DQNB「……いや。その……なんだ……がんばれ」

虎助「まあまあまあ……俺が天才だつてことを教えてやるからちよつと待つてる」

中学生DQNA「お、おう……」

中学生DQNB「なんだ……その……がんばれ……」

虎助「いいか……チキンラーメンの上手い食べ方つてのを教えてやるよ……」

まずはチキンラーメンを封を切らずに麺を砕だろ？次にご飯を炊く、そんでご飯に生卵をかけ、醤油を少々入れてかき混ぜる で、食べる 美味しい 以上」

中学生DQNA「ラーメン食べよ」

中学生DQNB「つてか砕いた意味ねえだろ」

虎助「……」

中学生DQNA「おい……ちよつと頭おかしいやつだったんじゃね？こいつ」

中学生DQNB「どつやらそうみたいだな……でも面白いしいんじゃね？」

中学生DQNA「まあ……それは確かに」

虎助「仕方ねえ……とっておきを話してやるよ……」
ゴゴゴゴゴ

中学生DQNA「ほう……それはなんだ……？（なんだ……こいつ……オーラが見える……!）」

中学生DQNB「こいつ……まさか……（そんなことよりおうどんたべたい）」

虎助「実はな……俺……」
ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

中学生DQNA「ゴクリ……（オーラがどんどん増えてやがるッッ!）」

中学生DQNB「さあ……話してくれよ……（家にカップヌードル残ってたっけ?）」

虎助「今日……神様に会ったんだ……」
ブワアアアアア

中学生DQNA「なん……だと……（オーラが……やべえ!このままじゃやられる!?)」

中学生DQNB「たしか買え置きがあつたはず（そいつはすごいな……）」

虎助「おい中学生DQNB……」

中学生DQNB「塩と味噌……どっちが美味いかな?（ん?なんだ……?）」

中学生DONA「お前、思ってることと喋ってることが逆だぞ」

中学生DONB「つまり……どういうことだってばよ……？」

虎助「そこに気づくとは……やはり天才か……」

中学生DONA「ってか、なんでこうなったん？」

30分後

虎助「お兄ちゃ…あんっ！そんなとこマチュピチュしないでえっ！
そこは世界遺産なのおおっ！あん！」

中学生DQNA「ほーら、こんなにヌルハチになってるよ。」

虎助「アン…デスからそんな恥ずかしい事は言わないで下さい…マ
ヤ…もう…。」

中学生DQNA「インカ、いいのんか？」

虎助「そう…そこ…そこはやさしくカムチャッカ…。」

中学生DQNA「いいんか？ああ？ここがインカ？」

虎助「も、もつとマンジュシュリしてっ…。」

中学生DQNA「そのままお兄ちゃんのキプチャク・ハンも舐めて

ござん…。」

虎助「お兄ちゃ…コモドウスがデキウスしちゃう！」

中学生DONA「俺のエラガバルスなカリグラがもうタキトウスしてやる！」

虎助「そんなにムキアヌしたらヌメリアヌしちゃあうう！！マヤ！！イブ！イブツ！イブン・サイド・マグリビー！！！！らめええ！！地上絵できちやううう！！」

あれ？どうしてこうなったんだ？

中学生ドキュナの名前はマサヒロだった……！（前書き）

え？中学生DQNBの名前？

タカシでいいんじゃない？

ってかサブタイ適当だし

中学生ドキユナの名前はマサヒロだった……！

前回のあらすじ

中学生二人となんだかんであって仲良くなった

マサヒロ「虎助……って俺の名前なんか変わってるんだけど……」

タカシ「なんか作者が毎回毎回「中学生DON」って打つのがめんどくさかったらしい」

虎助「それと今「打つのが」って打とうとしたら「鬱のが」って出てきて、作者自身が鬱になってるらしいぞ」

マサヒロ「………」愁傷様！

タカシ「んで？神様とやらからもらった手紙ってのは？」

虎助「あ、ちなみにこの2人には色々伝えてあるぜ」

マサヒロ「誰に説明してんだよ」

虎助「ある意味の神様にだよ！ってか、お前らなんか口調が普通になっただけ」

タカシ「なんか毎回わざと草生やすのがめんどかったらしいぞ」

虎助「それと今「タカシ」って打とうとしたら「高志」って出てきて、作者が「誰だよ！！」ってツッコんだらしいぞ」

マサヒロ「同じようなネタひっぱんなよ・・・」

高志「まあいいや、とりあえず手紙読もうぜ」

虎助「お前の名前」「高志」に・・・まあいいか読むとしよう」

正弘「なんか作者自身、あきらめたらしいぞ　ちなみに俺の名前もだ」

虎助「作者エ・・・っと、あつたあつた手紙！えーっと？」

『＜結婚前＞　に向って読んでください

男：やった！待ちに待った日がようやくやってきたよ！本当に待ちきれなかったよ！

女：結婚やめてもいいかな？

男：ノー、そんなのありえないよ。

女：私のこと愛してる？

男：当然だよ！

女：裏切ったりする？

男：ノー、どうしてそんな風に考えるのかな？

女：キスして。

男：もちろん！一度だけじゃ済まないよ？

女：私に暴力を振るう？

男：永遠にありえないよ！

女：あなたを信じていい？

＜結婚後＞　に向って読んでください』

高志「・・・」

正弘「なに！？未完の匂い・・・だと！？作者め・・・放り出す気か・・・！！！！」

高志「違う違う蜜柑ね蜜柑」

虎助「ちなみに作者はまたもや「蜜柑」って打とうとして「未完」って出てきて、ほとんどやる気無くしたらしいぞ」

高志「作者普段どんな変換してんだよ・・・」

正弘「そりゃ、携帯で「す」と打つと、予測変換で「睡眠薬」とか「素敵やん」とか「スマイル0円」とか出てくるやつだぞ」

虎助「もう死んだ方がいいんじゃない？」

正弘「可哀想なんだから放っておいてやれよ・・・」

高志「とりあえずミカンってことはあぶりだした・・・おいライタ
ー」

正弘「おう」

高志「シュボボ（、；、；）ボワツ」

虎助「もう許してやれよ」

正弘「絶対に許さない」

虎助「そうか・・・」

高志「ほら・・・出てきたぞ・・・」

『ふいんき（なぜか変換できない）
そのとうり（なぜか変換できない）
がいしゅつ（なぜか変換できない）
しゅずつ（なぜか変換できない）
加藤わし（なぜか変換できない）
ほっぽりよんど（なぜか返還されない）
童貞（なぜか卒業できない）
見つめあうと（素直におしゃべりできない）
自衛隊（なぜか派遣できない）
せんたつき（なぜか変換できる）
空気（なぜか読めない）
確信犯（なぜか誤用だと言われる）
Romantic（止まらない）』

正弘「・・・」

虎助「・・・」

高志「・・・」

正弘「神様って・・・」

虎助「やめろ、言うんじゃない」

高志「糞野郎って何考えてるんだろうな・・・」

虎助「言うなつったろ！ってかさりげなくレベルアップした罵倒し

てんじゃねえ！」

なんだかんだで、神様のおかげで中学生との交友度が上がりました

中学生ドキュナの名前はマサヒロだった・・・！（後書き）

・
ってかさ・・・軽い登場人物のつもりで中学生出したんだけどさ・・・

なんかレギュラーメンバーになりそうな予感！

これが・・・プロットもなしに気分で書くってやつか・・・

恐ろしいな・・・

おいしいお茶ってたまに飲むと美味しいよね（前書き）

そろそろ主人公の能力出そうかなーとか思っ

ちなみにこれを書いているとき、兄の部屋から大音量の萌えソングが流れてきました

たぶんヘッドホンの端子が外れたんだね！

ってか、たまに兄の部屋から「うっ！」とか聞こえてくるけど、アレはそういうことをしているって認識でいいのか？

おいしいお茶ってたまに飲むと美味しいよね

ぜんかいのあらすじっ！

とらすけは ちゅーがくせーふたりと まんざいをしてました
おてがみをよんで つっこむ というさぎょうをくりかえしてました

正弘「以上ッッ！」

高志「え？何が？」

虎助「今、あらすじ流れとっただろうが！アニメで言うところの上
に流れてるテロップのことだ！」

正弘「漫画で言うとコマ外にあるアレだね」

高志「えっ？えっ！？」

虎助「あれって登場人物に対してたまにネタバレとかあるよなww
」

正弘「そうそうwwww裏設定だけかと思ってたのに・・・っての
がけっこうあるよなwwww」

高志「いや・・・あの・・・」

虎助「サンデーとかそういうのマジ多いwwwwww」

正弘「マガジンだとあらすじのはずがネタバレってパターンが多い
なwwwwww」

高志「……………シャラーupp!」

虎助&正弘「うおっ!?!」

高志「いい加減メタ発言やめっ!」

虎助「本心では「俺だけ仲間外れとかひどいじゃないか」とか思っ
てたりしてな」

正弘「この恥ずかしがり屋さん」

高志「…………殴るぞ」

虎助「そういう場合ってもうすでに殴ってるパターンあるよな」

正弘「殴るって言うてるのに蹴ってくるパターンもあるよな」

ドカツ バキッ

「虎助と正弘は殴られています」

ぐふっ がっ

高志「気を取り直して、もう一度持ち物の確認しようか」

虎助「…………この四次元ポケットから何を出せと?」

正弘「四次元ポケットなら望み通りの物が出てくるんじゃないか?」

虎助「あ…………そう言えばそうだったな。そっぴゃさっきは何も

考えずに出してたからなあ」

高志「なら「能力についての情報」を念じて取り出してみたら？」

虎助「おっけ、やってみる」

能力について・・・能力について・・・と

虎助「なんかフロッピーディスクでできた」

正弘「今どきフロッピーかよ・・・」

高志「んじゃ、PC専門店行ってみるか」

虎助「俺、この街のことなんも知らねえぞ」

正弘「お前の事ここまで知っちまったんだ・・・最後まで付き合っ
ぜ？」

高志「そうそう、最初は金目当てだったんだけど・・・お前のこと
気に入っちゃったしな！」

虎助「お前ら・・・ありがとよ！」

虎助「私の窓つて・・・未だにこんなPCあったのか・・・」

正弘「おい、wのインドさん舐めんな！」

高志「meさんだつてがんばってんだぞ！」

虎助「ああ、はいはいビルゲイツさんお疲れ様つと」

フロツピーの中には何が入ってるかなーつと

高志「テキストファイルが一つだけだな」

正弘「でも容量とあってねえぞ？隠しファイル表示にしてみる」

虎助「何気にお前からPCに詳しくそうだな・・・」

高志「ああ、一応PCの塾に行ってるしな」

正弘「お前と出会ったのはその塾の帰りだったんだ」

虎助「なるほどね・・・とりあえずこのテキスト開くか」

中には・・・

『このテキストはただいま貴様のようなイエローモンキーには一切使用されておりませーん！

糞手に入れたフロッピーディスクをもう一度そのミニマム脳みそと節穴EYEで糞お確かめのうえ、糞改めて…って虎助くんではないか』

虎助「閉じていいか？」

高志「我慢しろ」

正弘「安心しろ、俺らも今PCをぶん殴りたい」

しかたねえ・・・スクロールすつか

『

ノ - 、 \

1 1 <やあやあやアやア!?

皿、

/ □ \

』

虎助「すまん・・・トラウマなんだ・・・虎だけにな！」

高志「虎馬ってかWWW誰馬WWW」

正弘「う、うま・・・馬・・・って俺はやらねえよ！ってか良いからさっさとスクロールしてけ！」

なんかもうめんどくさい・・・

『君の能力の名は

ラディカル！グッド、スピイイイード！

さあアア、行くぞ！！

私は何でも速く走らせることが、できまーす！！

この世の理はすなわち速さだと思いませんか

物事を速くなしとげればそのぶん時間が有効に使えます

遅いことなら誰でも出来る、20年かければバカでも傑作小説が書ける！

有能なのは月刊漫画家より週刊漫画家、週刊よりも日刊です、つまり速さこそ有能なのが、文化の基本法則！そして俺の持論でさー！
ー！ー！ー！

ああ・・・2分20秒・・・！ また2秒、世界を縮めた・・・ア！』

虎助「お前に足りないのはッ！情熱思想理念頭脳気品優雅さ勤勉さ！そして何よりもオオ 速さが足りない！！！」

高志「もつとだ！もつと！！もつと輝けええええええ！！！」

正弘「おい！何を我慢してる！お前は今泣いていい！！泣いていいんだ……」

虎助「よし、スクロールしよう」

正弘「そうだな。ってかクーガーが来ると思わず叫んじゃうよな」

高志「兄貴って呼べよ」

・ 『まあ、ここまでの冗談……ってかコピペは置いておいてだな……

本題に移ろつか……

あゝいお茶ってたまに飲むと美味しいよね！……！！

「冗談は置いておこう」

とりあえず君の能力だが……

「ギリギリ死ねない程度の能力」と「絶対フラグ体質」だ

あ、ちなみに「死ねない」ってところがポイントな

「死ねない」じゃないんだ「死ねない」んだ

で、「絶対フラグ体质」なんだが・・・

まあ、恋愛フラグに死亡フラグ、生存フラグに、勝利フラグ、なんでも思いのままだ

お前のしゃべった言葉は全て「フラグ」となる

例えば、お前が「実は俺・・・ポニーテール萌えなんだ」と喋る
そのあと、お前に空き缶がぶつけられたでしょう・・・

その場合、誰かが「実は俺・・・ポニーテール萌えなんだ」と喋った
たらそいつにも空き缶がぶつけられる

簡単に説明すると、お前が喋った言葉は全てフラグになる・・・
ということだ

ではグッドラック』

虎助「・・・なんかすっごい抽象的な能力だな」

高志「だけど、うまく使うとかなり便利そうだな」

正弘「例えば、「うんこ」って喋ったあと、1000円拾ったらその
のあとは「うんこ」って喋ったやつはみんな1000円拾うわけだろ
？」

虎助「あと、フラグの塗り替え・・・とかもできそうだな」

高志「何もしない場合はどうなんだろうな」

正弘「その言葉を喋ると、「息を吸う」とかのフラグになるんじゃないか？」

虎助「ふむ・・・たぶんそうだろうな」

高志「あとは・・・一言じゃないとダメなのか？」

虎助「いや、たぶん一息で言えば大丈夫なんだろう」

正弘「たぶんそうだろうな」「実は俺・・・ポニーテール萌えなんだ」とかが有効ならそうなるんだろう」

虎助「・・・とりあえずこの世界にきた意味とか目的とかわからんけど・・・金集めでもするか？」

高志「さんせいwww」

正弘「でもそう上手くいくかなあ？」

結果から話そう・・・20万手に入れたぞおおおおおおおおおお
おおおおおおおお！！！！！！

?????
、・、
ちよつちよまってえ（前書き）

ちよつとこの小説初めての感想と、励ましの言葉をいただいたので
ネタ帳を開いて書くおっお

?????

、・、・、 ちようちよまってえ

前回の粗筋

主人公、虎助の能力が解明し、それを好き勝手に使う仲間達

虎助も調子に乗って能力で好き勝手に使わせてゆく……

果たして彼を止められる者は居るのだろうか……

怒涛の6話！始まり始まりッ！

虎助「あらずじ漢字まみれwwwwww」

正弘「なんか作者が『今日は漢字な気分なのー、新しい年なんだからいいのー』とか駄々こねたらしい」

高志「子供みたいなやつだな……」

虎助「あの作者、年始がいつもより忙しくて幼児退行してるからな」

正弘「ま、そんな話は置いておいて、今からどうする?」

虎助「そうだなー…2000円手に入れたけど、金は4次元ポケットとにたくさんつまってたしな」

高志「俺、100万円の束をポケットに詰め込んでるやつ始めてみたよ」

正弘「俺もだよ…そっぴやそのバッグの中には何が入ってるんだ?」

虎助「文明の利器と凶器と食糧と漫画」

正弘「漫画持ってんのかよwwwちょっと読もうぜwww異世界の漫画とか初めてwww」

高志「いや、凶器つてのに反応しろよ…で、凶器って包丁かなんかか？」

虎助「いや、携帯ナイフだな……中身見てないからもしかしたら違うかもしれないけど」

正弘「どうする？wwwカラオケ行く？wwwオケ行っちゃう？wwwそこで漫画読んじやう？www」

虎助「お前はなんで漫画でそこまでテンション上げれるんだよ」

正弘「ハッ！テンション高くねーし！！どっちかってーとお前のがテンションたけえし！俺のテンションの低さは世界一だし！！」

虎助「お前面倒くさいやつだな…」

高志「おい、とりあえず正弘の言うとおり、カラオケ行くぞ。個室なら凶器を取り出しても問題ない」

虎助「こんな正論言ってるけど、こいつ初めは俺から金むしりとろうとしてたんだぜ…？」

正弘「あんな過去の出来事なんか忘れたわ！！！！」

虎助「忘れるなア！！」

高志「だからはやく行くぞ！！」

虎助「カラオケなう…っ」と

正弘「何やってるんだ？」

虎助「t w i t t e rで呟いてる」

高志「そっちにもt w i t t e rあるのか…っつか異世界でも電波とかフォロワー同じなんだな…」

虎助「いや、フォロワーいねえし関係ねえよ」

正弘「こいつ最高にぼっちwwwwww」

虎助「うっせえな！フォロワー数は1万5千人いるのにフォロワーは0人なんてギネス載るぞ！！」

高志「なにそれこわい…お前、世界中の人々から嫌われてんじゃね？」

虎助「理不尽にはもう慣れた」

正弘「とりあえずさっさと漫画だ漫画！！」

高志「じゃ、こっちは携帯ナイフ見させてもらっよう」

虎助「なら俺は歌でも歌うよ！！なんでカラオケ入ってるのに歌うやつ一人だけなんだよ！さみしいよ！ここでもぼっちかよ！」

正弘「うるせえ！！！！黙ってる！俺に漫画を読ませろ！！」

虎助「カラオケ来てるのに歌うなと！？」

高志「んーっと、これが携帯ナイフか…ただのシンプルな携帯ナイフじゃねえか」

虎助「お前はお前でマイペースだな！！ナイフ見てもいいからせめて会話に参加しろよ！！」

正弘「あーもつづるせえー…無視して漫画読んでよ」

虎助「とうとう完全無視だよ！さみしすぎるだろ！！」

正弘「ふーん…未来日記かぁ…こっちでは聞いた事もないな」

高志「うわっ！中身バタフライナイフじゃねえか！こわっ！」

虎助「とうとう完全無視だよ！さみしすぎるだろー！」

正弘「市立桜見中学…？俺と同じ学校じゃねえか…」

高志「これどんぐらい斬れるんよ…机が豆腐みたいに斬れるぞ…これバタフライナイフじゃねえだろ…」

虎助「とうとう完全無視だよ！さみしすぎるだろー！」

正弘「天野雪輝…隣のクラスのやつじゃねえか…おいおい…まさか…」

高志「あれ？なんか手に吸い付いて離れねえぞこれ！！呪いの装備とかじゃないだろっな！！！」

デロデロデロデロデーデデデン

虎助「ごめん…無視はつらい…誰か反応してくれ…」

正弘「我妻由乃！？あのアイドルじゃねえか…なんだよこれ…まさか天野と付き合ってるのか！？」

高志「おいおいおいおい！呪いの効果音流れたよ！これマジで呪いの装備だよ！！ちよっ、教会行かなきゃ！！！」

虎助「マジで無視…つらい…あ…よし…うん、言ってみるか…」

正弘「はあ！？なんだこれ！なんなんだよこれ！え、えええ！？」

高志「ちくしょうちくしょう！マジで手から離れねえよ！くそつ！教会つてこの辺あったっけ！？はやくはやくはやくはやく…ああもうちくしょうくそつたれ！！はやく教会い！」

虎助「……………教会行くのは今日かい？」

正弘「下らねえこと言ってんじゃねえよ！！」

高志「冗談云ってる場合じゃねえんだよ！このナイフで叩っ斬るぞ！！」

虎助「やっと反応してもらえましたけど、この反応はいささかきついものがありますね」

正弘「黙ってるつたろ！つてかこの漫画やべえぞ！おい高志！これたぶん未来について書かれてる！未来日記つて題名だし！！」

高志「こつちのがやべえよ！たぶん虎助の住んでた世界はドラエだぞ！効果音流れたし！俺呪われたし！ほら！ステータス見てみ！」

虎助「お前らちょっと落ち着けよ…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0386y/>

くだらない人間にくだらない能力

2012年1月3日01時48分発行